

平成 27 年度  
文化庁アーカイブ中核拠点形成モデル事業  
成果報告

武蔵野美術大学美術館・図書館

平成 28 年 3 月 31 日

## 目次

0.0	事業の目的	1
0.1	事業実施のあらまし	1
0.2	趣旨説明	2
1.1	訪問調査	2
1.2	所蔵資料についてアンケート	3
1.3	研究会の開催とプロダクト・デザイン連続講座の企画	4
2.0	アーカイブ中核拠点形成モデル事業連携事務局の運営	5

## 0.0 事業の目的

プロダクト・デザインに関わる資料のアーカイブ化推進および国内の諸アーカイブのネットワーク化の拠点を武蔵野美術大学美術館・図書館に設置し、資料の収集、整理、保管、保存修復、利活用の手法の検討と構築を行う。

## 0.1 事業の実施のあらまし

文化発信を支える基盤の整備・充実に資する「文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究」の中で、平成26年度に行われた有識者会議<sup>\*1</sup>において、具体的な方策が検討・提案され、平成27年度より、アーカイブの中核拠点形成モデル事業の実施が実施された。



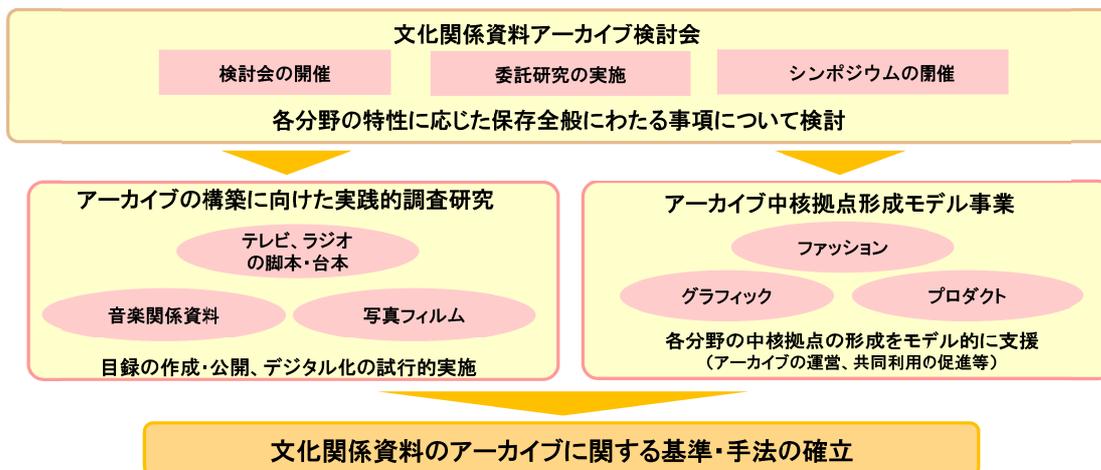
### 文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究事業

#### 現状

- これまで保存の対象とされてこなかった歴史的・文化的価値のある文化関係資料が多数ある
- 保存するための仕組みが構築されていないため、散逸・消失の危機にある
- 所在情報が把握できていないため、活用することができない

#### 文化関係資料のアーカイブに関する基準・手法を確立することが必要

歴史的・文化的価値のある我が国の貴重な文化関係資料が散逸・消失することのないよう、アーカイブの構築に向けた資料の保存及び活用を図るための望ましい仕組みの在り方について調査研究を行う



アーカイブ中核拠点形成モデル事業は、文化関係資料のうち特にデザイン分野において中核となり得る大学や収蔵館等を国（文化庁）が拠点として委託し、一定期間集中的に取り組を進めることにより、当該拠点を中心としてデザイン全体のアーカイブの整備を効率的かつ効果的に促進することを目的としている。

具体的には、デザイン分野をグラフィック、ファッション、プロダクトの3分野に分け、各分野の「中核拠点」となる3団体を選定し、①ネットワークの構築 ②アーカイブ手法の検討 ③データベースの管理・運用・利活用を調査研究の必須課題とし、各分野の現状調査・分析の後、デザイン分野全体での問題点の共有と解決策の提案を目指す。

<sup>\*1</sup>『文化関係資料のアーカイブに関する有識者会議中間とりまとめ』（平成26年8月27日）

[http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kondankaito/bunka\\_archive/pdf/torimatome.pdf](http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kondankaito/bunka_archive/pdf/torimatome.pdf)

## 0.2 趣旨説明

訪問調査や情報提供の依頼に際して必要となる趣旨説明文を作成。必要に応じて各分野ごとに任意加筆可。(別添1-1, 1-2 参照)

### 1.1 訪問調査

本事業への協力体制の基盤作りとなる初年度は、プロダクト資料の収集に実績のある施設、またこれまで当館と所蔵品の貸出・借用等で交流のあった施設を選び出し、本事業への協力を依頼、趣旨説明の訪問を行った。プロダクト資料の収集やアーカイブ化など各施設での現状や課題について調査した。所蔵館どうしの情報交換の機会を設け、本事業の今後の進め方についての意見や要望の聞き取りができるよう環境作りを図った。

情報交換の具体的なテーマとして、

- ・資料の収集：収集方法、収集方針（今後の収集計画）
- ・整理・保管・保存：データベースの現状と課題、収蔵スペースの現状と課題
- ・保存修復：実施状況の調査（美術品との違いなど、プロダクトについての修復の現状）
- ・利活用の手法：実例の紹介や提案、要望などの聞き取り

訪問機関と面談者は以下の通り（別添2 訪問時の調査票 参照）

東京国立近代美術館工芸館 2016年2月9日

富山県立近代美術館 2016年2月12日

宇都宮美術館 2016年2月19日

大阪市新美術館開設準備室 2016年2月26日

京都市立芸術大学芸術資料館 2016年2月29日

ヴィクトリア&アルバートミュージアム (英国) 2016年3月10日

デザイン・ミュージアム (英国) 2016年3月11日

ロンドン科学博物館 (英国) 2016年3月11日

ジェフリー・ミュージアム (英国) 2016年3月12日

## 1.2 所蔵資料についてアンケート

日本国内に所蔵されているデザイン資料の実態を把握するために、全国の美術館、博物館、資料館などの収蔵施設にアンケートを行った。アンケートでは「デザイン資料」を収集の主たる対象としている機関はもちろんのこと、民俗資料、歴史資料館なども対象とした。デザイン資料の収蔵状況の把握、デザイン資料として位置付けるべき未発掘資料の現状も調査できることを期待した。記入様式はできる限り単純化し、自由形式で回答できるよう工夫した。また、データのデジタル化、データベース化の現状も質問に加えた。

- ・「デザイン資料」として所蔵されている資料がどれくらいあるのか
- ・「グラフィック」「ファッション」「プロダクト」として分類される資料にはどのようなものが含まれるのか。
- ・アーカイブについての関心
- ・所蔵資料のデータベース化の現状

以上のような項目をあげて、現状の把握、デザインアーカイブについての意識調査を実施  
全国約1000か所の機関に所蔵状況調査を実施（別添3 アンケート様式参照）

### 対象とした施設

全国美術館会議

日本博物館協会（動物園・植物園・水族館を除く）

大学付属美術館・博物館、大学のデザイン学科研究室・企業博物館

発送数 合計 のべ1557通

第1回発送（2015年12月）997通 / 第2回発送（2016年2月）560通

回答数 510通（2016年3月末日現在）

### 集計結果と分析

アンケートの締め切りを平成28年3月末日としたが、締め切り以降も問い合わせや返信があることから、本事業への関心の高さが窺われる。回答に際して「現状ではデザイン資料と分類していないが、デザイン資料とみなしてよいかどうかの判断が難しい」という質問が最も多い。今回のアンケートの結果は「グラフィック」「ファッション」「プロダクト」各分野の対象範囲を絞っていくための現状調査となった。今後の分析では、「デザイン資料のアーカイブ化」に向けて実現可能な規模、目標の設定、段階の設定、その手法について考えたい。

### 1.3 研究会の開催とプロダクト・デザイン連続講座の企画

プロダクト・デザイン資料のアーカイブ化を具体的に示す研究として企画した。

当館のプロダクト・デザイン資料の中心である近代椅子について資料に付随する様々な情報をより詳細に調査・研究し、アーカイブ化すること実践する。

2016年1月 島崎信本学名誉教授による欧米のデザインミュージアム事情

2016年2～3月 次年度開催予定 プロダクト・デザイン連続講座の企画会議

「座って学ぶ椅子学講座-ムサビ近代椅子コレクション400脚-」

毎回約40脚の椅子を取り上げ、製作に至る背景や技術、加工方法、さらに同時代のデザイン資料にも言及する。座り方や椅子を通した振る舞い方といった「日常の生活用品を長く大切に使う」という視点も取り入れる。

受講者は講座で取り上げる椅子に実際に座りながら、暮らしの中の道具について考える。平成28年5～12月 計6回の連続講座を予定。

講座案内

[http://mauml.musabi.ac.jp/ml/wp-content/uploads/2016/04/chair\\_A3.pdf](http://mauml.musabi.ac.jp/ml/wp-content/uploads/2016/04/chair_A3.pdf)

## 2. アーカイブ中核拠点形成モデル事業連携事務局の運営

【アーカイブ中核拠点形成モデル事業 第1回連絡会】

(平成27年10月29日(木) 武蔵野美術大学12号館8階 談話室MAU)

会議次第：

1. 連携事務局よりご挨拶 (美術館・図書館赤塚祐二館長)
2. 参加者自己紹介 (次頁出席者一覧 参照)
3. 各分野の概要説明
  - ・事業計画全体と平成28年度の予定
  - ・現状報告
4. 文化庁への質問
5. 意見交換



事業の採択通知を受けたのが9月に入ってからとい

うこともあり、3分野の代表者と担当者、文化庁の関係方々の顔合わせ、自己紹介から始まった。各校ともほぼ半年の活動計画をまとめ、事業に着手し始める時期に開催された。資料の特性からくる分野ごとの方法の違いもあることから、3分野それぞれの進め方を発表した後、事業全体の方向性を話し合った。

グラフィック分野では、協力委員会を設け、人のネットワーク作りから始め、組織へとネットワークを広げる。海外先行事例調査を行うの実施。データベース構築のためのフォーマットの研究を主な活動計画にあげた。ファッション分野では、未発掘資料の調査、現状把握と資料保存に重点を置く。対象は明治、大正、昭和戦前期から着手。プロダクト分野では、対象となる資料を椅子、生活用品に限定したうえで、所蔵状況の調査から着手。民俗資料、歴史資料として扱われている資料の現状を調査する。

事業開始にあたり、今年度内に3分野合同で行うものとして①本事業の趣旨説明文の作成②所蔵資料についてのアンケート調査の実施、を決めた。①については、武蔵野美大で作成した文案を基に3分野共通の主旨説明文を作成し、各分野が今後の活動時に適宜使用する。使用に際しての調整は任意。②については武蔵野美大が共通様式を作成、発送、回収を担当し、回収結果をグラフィック分野、ファッション分野と共有する。

文化庁への質問としては、予算の使い方、年度末の締め、報告書作成などが挙げられた。本事業の継続期間については現状では概ね5年程度としているが、あくまで予定であるとの説明があった。

平成27年度

第1回 アーカイブ中核拠点形成モデル事業連絡会議 出席者一覧

日時：平成27年10月29日（木）13:30～

於：武蔵野美術大学 12号館8階 大会議室

■グラフィック

京都工芸繊維大学

並木 誠士 美術工芸資料館館長  
平芳 幸浩 美術工芸資料館 准教授  
岡 達也  
照山 貴子

■ファッション

文化学園大学

近藤 尚子 教授、和装文化研究所 所長  
田中 直人 准教授  
中山 明彦 研究協力室 室長

■プロダクト

武蔵野美術大学

赤塚 祐二 美術館・図書館 館長  
柏木 博 造形文化・美学美術史 教授  
田中 正之 造形文化・美学美術史 教授  
猪又 正弥 美術館・図書館グループ長  
小野寺 玲子 美術チームリーダー  
沢田 雄一 図書チームリーダー  
篠江 裕 美術チーム  
光藤 雄介 美術館・図書館グループ

■文化庁

塩見 絢子 文化庁 芸術文化課企画係長  
牛島 こずえ 文化庁 芸術文化課

## 【アーカイブ中核拠点形成モデル事業 第2回連絡会】

(平成28年3月1日(水) 武蔵野美術大学 12号館 第4会議室)

### 会議次第

#### 1. 今年度事業進捗報告

グラフィック分野：京都工芸繊維大学美術工芸資料館

ファッション分野：文化学園大学和装文化研究所

プロダクト分野：武蔵野美術大学美術館・図書館

#### 2. 報告書の方向性について

#### 3. 意見交換、その他



各分野からの活動報告があった。グラフィック分野では、関係する機関への訪問調査（保存管理や展示の実態調査）国内10件、海外3件の実施。外部から協力委員6名を招き、アーカイブ構築に向けての意見、要望を集める協力委員会の実施。また、3月20日開催予定の報告会及び公開シンポジウムについての案内があった。ファッション分野では、事業実施にあたり協力を得られる機関との連携を考え、京都服飾文化研究財団と神戸ファッション美術館を訪問。また、今年の活動の中心である未発掘資料の調査についての報告があった。機関が所蔵する資料ではなく、個人蔵を対象としているため、保存環境の改善や情報共有は開示の限界など難しい課題が残るとの指摘があった。プロダクト分野では、3分野合同のアンケート調査実施の現状と回収結果の集計についての報告があった。アンケートは現在も回収途中であり、集計や分析は今後進める予定。

文化庁からは林調査官から、今年度の事業実績について、計画、準備、実行までが非常に短期間であったにもかかわらず、全体の方向性や枠組みが定まってきているのではないかと、という感想が述べられた。アンケートについては、現状把握に必要な情報が得られる貴重な機会だとして、今後の分析を待ちたいとの要望があった。

平成27年度

第2回アーカイブ中核拠点形成モデル事業連絡会議 出席者一覧

日時：平成28年3月1日（火）14:00～

於：武蔵野美術大学 12号館8階 大会議室

■グラフィック

京都工芸繊維大学

平芳 幸浩 美術工芸資料館 准教授

岡 達也

照山 貴子

■ファッション

文化学園大学

近藤 尚子 教授、和装文化研究所 所長

田中 直人 准教授

中山 明彦 研究協力室 室長

■プロダクト

武蔵野美術大学

赤塚 祐二 美術館・図書館 館長

柏木 博 造形文化・美学美術史 教授

田中 正之 造形文化・美学美術史 教授

猪又 正弥 美術館・図書館グループ長

小野寺 玲子 美術チームリーダー

沢田 雄一 図書チームリーダー

篠江 裕 美術チーム

光藤 雄介 美術館・図書館グループ

中野 可南子 美術館・図書館グループ

■文化庁

林 洋子 文化庁 調査官

牛島 こずえ 文化庁 芸術文化課

## 「文化庁アーカイブ中核拠点形成モデル事業」について (ご協力のお願ひ)

このたび、京都工芸繊維大学工芸資料館、文化学園大学和装文化研究所、武蔵野美術大学美術館・図書館の3機関は、文化庁委託業務として「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」を受託いたしました。本事業は、日本国内に所蔵されているデザイン分野の資料に関する情報を収集・整理し、デジタル・アーカイブ化することによって、それら資料の利活用のための基盤を形成することを目的としています。デザインを専門とするミュージアムが未だ存在しない日本においては、デザインに関する貴重な資料は、散逸や消失の危機にさらされ、また世界規模の文化振興への貢献が期待されるにも関わらず、国内における所在情報の把握が難しく、活用するのが困難な状況にあります。このような状況に鑑み、本事業では、デザイン資料をグラフィック・デザイン、ファッション・デザイン、プロダクト・デザインの3分野に分け、諸機関や個人（美術館・博物館、大学・研究機関、民間施設、個人蒐集家等）における資料の収集・保存、データベース化やデジタル・アーカイブ化の現状を調査すると同時に、所蔵機関や所蔵者のネットワークを構築し、連携を図ることを目指しております。さらに、集められた調査の情報を集約し、国内のデザイン資料の横断的な利活用の促進と、デジタル・アーカイブ化の普及啓発に取り組むこととなっております。

当館は、上記の三つの分野のうち、プロダクト・デザインの資料に関する国内の情報の調査・収集を担当することとなりました。美術館や博物館など国内の公的機関および企業等の民間施設や個人におけるプロダクト・デザインの収集・管理・保存の状況を調査し、それらの情報のデータ化（アーカイブ化）を進め、国内外での利活用のためのプラットフォーム（基盤）を当館に設置いたします。

## Design Archives Project in Japan

Musashino Art University Museum & Library has been commissioned by the Agency for Cultural Affairs to undertake the **"Model Project for the Development of Design Archives (in the field of Product Design)"**. The aim of this Project is to collect and organize information on materials in the design field that are held in Japan. By developing digitalized archives it is planned to establish a platform for utilizing such materials. In Japan, where there are still no museums that specialize in design, important design-related materials are exposed to the risk of becoming scattered and lost; even though they are expected to make a contribution towards cultural promotion on a global scale, it is hard to utilize them in a situation where it is difficult to obtain information on their respective locations in Japan. In consideration of these circumstances, the Project seeks to conduct a fact-finding survey on the collection, storage and digital archiving status of various institutions and individuals (e.g., museums, universities, research institutes, private facilities, individual collectors) with respect to materials by dividing design materials into three fields—i.e., graphic design, fashion design and product design. The information consolidated through the survey will boost the utilization of materials and information across various institutions.

Out of the aforementioned three fields, Musashino Art University Museum & Library has been put in charge of investigating and collecting information on product design materials. We will conduct a survey on the collection, management and storage status of domestic public institutions (e.g., art museums, museums), private facilities (e.g., companies) and individuals with respect to product designs, convert information on the findings into digital data format and establish a platform for their domestic and overseas utilization in Musashino Art University Museum & Library.

別添 2

プロダクト分野

2016.01.28

質問
収集関連
○収集方針
収集開始時期（プロダクトデザインの収集開始年 開館と同時かどうか）
プロダクトデザイン収集の方針
収集において重視している基準：地域、作家、年代など
収集対象の方針の変更は今までにあったか
収集方法の寄贈、購入の割合と頻度
プロダクトデザインもしくは、それに類似するものとして分類されている資料の収集点数と現状について
収蔵資料の内でのプロダクトデザイン分野の位置付け
資料点数の内訳
登録されていない資料があるか、あればどのくらいあるか
プロダクトデザインの資料として登録されていないがプロダクトデザインに該当すると思われる資料がどの程度あるか
プロダクトデザインの収集への取り組みは進んでいるか、重視されているか 今後の見通し
○保管方法 修復・補修
収蔵スペースの問題点
保管環境について（温湿度管理など）
プロダクト資料専用の保管場所を確保しているか
保管場所をデータで管理しているか（未登録の資料の管理方法は）
修復／補修をした資料があるか
修復の基準
修復の方法
修復後の保管方法
展示関連
これまでにプロダクトデザインの展示会を開催しているか（図録の有無）
ない場合は企画することが可能か、実現にあたって考えられる課題点は
プロダクトデザインの資料性や収蔵品としての重要性に関しての一般の入場者（利用者）の理解度
展示以外の資料の活用方法
所蔵品目録
冊子体目録を発行しているか 発行時期や配布方法など
冊子体以外の場合 形態や配布方法
データの採取およびデータベース関連
○登録の手順
登録時に集めるデータの種類の
取り扱い説明書、マニュアルなど付属資料の扱い（製品カタログを含む）
○データベース
専用の管理システムかどうか。（業者は）
参考にしたデータベースがあるか
既存のデータベースとの違い（カスタマイズについて）
サーバーの運用について（維持費の負担など、現状のデータベースを運用上の問題点）
更新作業をしているか その方法
現時点で実現していないが検討中、あるいは将来的に増やそうと考えている機能などはあるか
画像データの取り方は、撮影かスキャンか
画素数など画像の登録について統一した基準はあるか
関連情報の範囲（関連資料・企業・人物など）
データベース上で登録情報と関連情報がリンクされているか
データベース上で他館の関連情報をリンクしているか（同じ作品を所蔵している館など）
データベースは外部公開を想定してつくられているか
外部に公開している場合、公開している情報の範囲
外部に公開していない場合、どういう理由、課題があって公開していないのか
公開するとすると既存のデータベースから変更が必要かどうか
収蔵庫をアーカイヴとして公開しているか（見学可能か）
データベースは事前問い合わせなどで閲覧に対応しているか

**1** グラフィック・デザインの作品（資料）を所蔵していますか？

はい  いいえ

↓ 「はい」とお答えの方

貴館ではどのような区分で所蔵されていますか？

およその点数も合わせてお教えてください。

例) ポスター、チラシ、商品パッケージ、書籍、雑誌、新聞、版下など

.....区分 (ない場合は空欄で結構です) .....およその点数.....  
..... が ..... 点

**2** ファッション・デザインの作品（資料）を所蔵していますか？

はい  いいえ

↓ 「はい」とお答えの方

貴館ではどのような区分で所蔵されていますか？

およその点数も合わせてお教えてください。

例) 江戸以前の着物、明治以後の着物、洋服、アクセサリ・装身具、図案・デザイン画、布地など

.....区分 (ない場合は空欄で結構です) .....およその点数.....  
..... が ..... 点

**3** プロダクト・デザインの作品（資料）を所蔵していますか？

はい  いいえ

↓ 「はい」とお答えの方

貴館ではどのような区分で所蔵されていますか？

およその点数も合わせてお教えてください。

例) 椅子、家具、家電、照明、食器、オーディオ、玩具、図面など

.....区分 (ない場合は空欄で結構です) .....およその点数.....  
..... が ..... 点